



## ○卒業発表会

30日(火)にこども学科2年生の卒業研究発表会が行われました。保護者の方々、就職先の事業所の方々をお招きし、一人ひとりが各自の研究成果を発表していきました。内容を詳しく紹介する余裕がありませんので、まずは全員の題目を紹介します。

「0, 1, 2歳児の手作りおもちゃ」「子育て支援が必要な理由」「赤ちゃんの笑顔」「0, 1歳児の絵本の選び方」「アンパンマンの歴史と魅力」「子どもと自然」「絵本が子どもに与える影響について」「気になる子どもの保育を考える」「子どもと手遊び」「いじめについて～日本のいじめの特长～」「大人への階段～子どもの発達と成長」「神経症性障がいへの理解と対応」「障がい者(児)の方々が楽しめるレクリエーション」「子どもに伝わる声かけについて」「手作り絵本(児童福祉の観点から)」「発達障害と遊び」「性的マイノリティと教育」「児童養護施設におけるよりよい支援のために～児童養護の入所理由～」そしてグループ発表として「はらぺこあおむし(オペレッタ)」「栄光の架け橋(合唱)」です。

私自身がまずびっくりし感心したことは、同じ分野でも一人ひとり皆研究の視点が違っていたということです。教員の指導も少しは入っていたかと思いますが、それぞれの個性が表れておりまねでない研究の意欲を感じました。次に感心したことは発表の方法もいろいろと変化に富んでいたということです。パワーポイントを活用し見やすくまとめていたものあり、手遊び活動を取り入れていたものあり、大判用紙に手書きでまとめて紹介していたものあり、自作絵本の朗読ありとさまざまだったこともよかったですと思います。情報機器活用のスマートさ、手作りの温かみなど、研究の内容だけでなくいろいろなよさが伝わってきました。1年生も同席し、先輩の姿を見ながら多くのことが学べたと思います。

せっかくですからあえて一つだけ具体的に紹介してみます。「はらぺこあおむし(オペレッタ)」です。内容は多くの方がご存知だと思われるので、あらすじは省略します。よかったところを私なりに紹介してみます。まずは舞台設定が適切であったことです。教室の演台前という狭い場所でしたが、上手に上下前後を工夫して使っていたことです。広がりがありました。次にセリフの伝え方です。練習時間はそうなかったかと思われるのですが、内容がよく聞こえ、感情も込められており完成度が高かったと思います。そして大道具・小道具の作成です。カラフルで使いやすく変化に富んでいました。「あおむし」がちぎれてしまったハプニングもむしろ観客の笑顔を誘いました。今回の“上演”一度きりというのはもったいないぐらいでしたね。

2年生はそれぞれ就職先の園などで具体的に仕事として始めるようになります。発表の成果を自信にして、新たに学びが始まるという前向きな気持ちで活躍してほしいと思いました。

